おかやましんきん

中小企業景況レポート vol.87

2026.4~6

業況判断ＤＩ　4月～6月は2.8と11期連続でプラス

【2026年4月～6月期の業況判断ＤＩ】

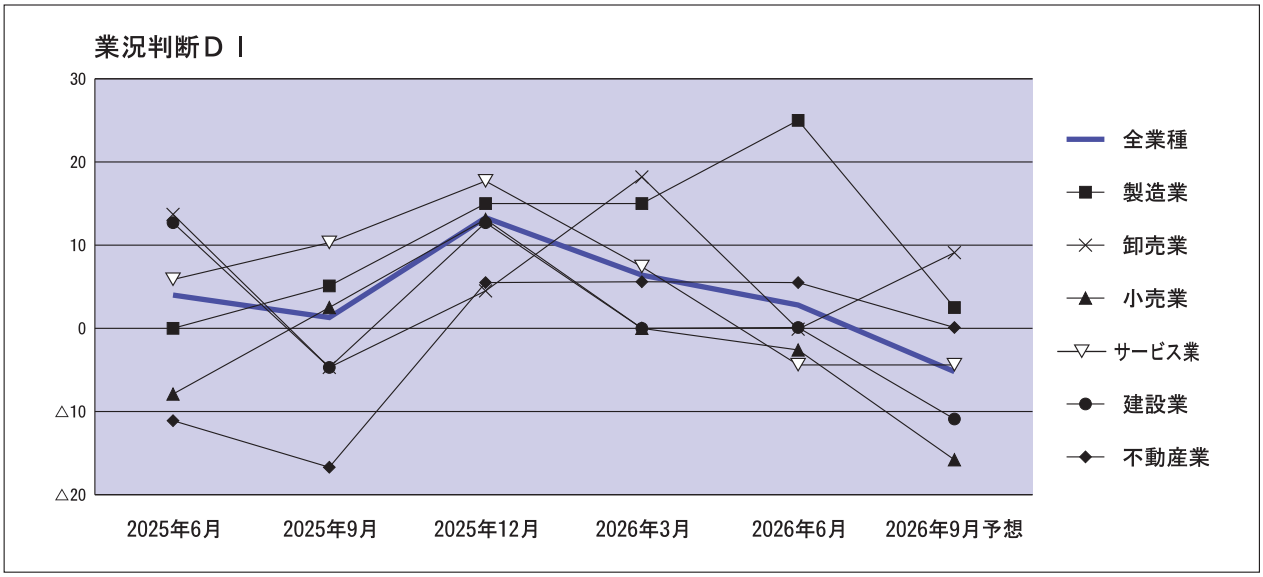
今回調査期間における全業種総合の業況判断ＤＩは前回調査比で3.6ポイント低下し2.8となりました。業種別の業況判断ＤＩは3業種においてプラスとなっています。

【2026年7月～9月期の予想業況判断ＤＩ】

次回調査期間における全業種総合の予想業況判断ＤＩは今回調査比で8.0ポイント低下し、△5.2の見込みとなっています。

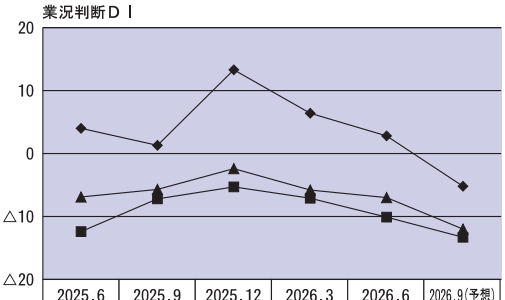
業種名＼時期	2026年 1月～3月	2026年 4月～6月		2026年 7月～9月（予想）	
全業種総合	6.4	△3.6	2.8	△8.0	△5.2
製造業	15.0	10.0	25.0	△22.5	2.5
卸売業	18.2	△18.3	△0.1	9.2	9.1
小売業	0.0	△2.6	△2.6	△13.2	△15.8
サービス業	7.4	△11.8	△4.4	0.0	△4.4
建設業	0.0	0.1	0.1	△11.0	△10.9
不動産業	5.6	△0.1	5.5	△5.4	0.1

景況天気図の目安　ＤＩ　好調←　30以上　10以上30未満　0以上10未満　△10以上0未満　△30以上△10未満　△30未満　→低調



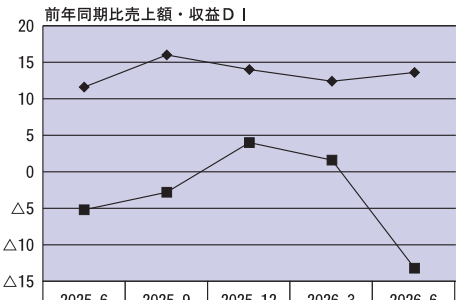
全業種総合

図表1-1



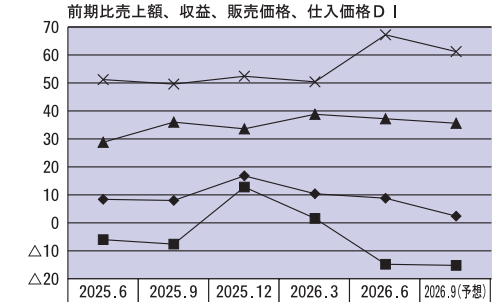
	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6	2026.9(予想)
当金庫調査ＤＩ	4.0	1.3	13.3	6.4	2.8	△5.2
中国地区ＤＩ	△12.4	△7.2	△5.3	△7.1	△10.1	△13.3
全国ＤＩ	△6.9	△5.7	△2.4	△5.8	△7.0	△12.0

図表1-2



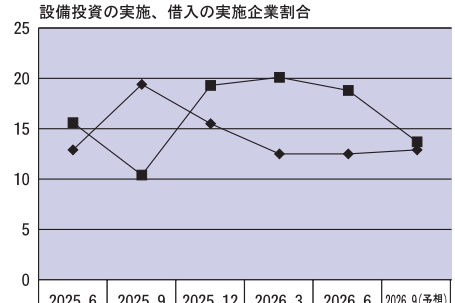
	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6
前年同期比売上額ＤＩ	11.6	16.0	14.0	12.4	13.6
前年同期比収益ＤＩ	△5.2	△2.8	4.0	1.6	△13.2

図表1-3



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6	2026.9(予想)
前期比売上額ＤＩ	8.4	8.0	16.8	10.4	8.8	2.4
前期比収益ＤＩ	△6.0	△7.6	12.8	1.6	△14.8	△15.2
前期比販売価格ＤＩ	28.8	36.0	33.6	38.8	37.2	35.6
前期比仕入価格ＤＩ	51.2	49.6	52.4	50.4	67.2	61.2

図表1-4



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6	2026.9(予想)
設備投資実施企業割合(%)	12.9	19.4	15.5	12.5	12.5	12.9
借入実施企業割合(%)	15.6	10.4	19.3	20.1	18.8	13.7

景　況　～業況判断ＤＩは2.8で11期連続のプラス～

今期の業況判断ＤＩは全業種総合で6.4→2.8と前回調査比で**3.6ポイント低下したものの、11期連続でのプラス**となりました。業種別においては製造業、建設業、不動産業の業況判断ＤＩがプラスとなっており、全体として景況感はやや高めで推移しています。中国地区ＤＩ（△10.1）、全国ＤＩ（△7.0）との比較では、当金庫営業エリアにおける景況感のほうが高めに推移しています。次回調査期間（2026年7月～9月）の予想業況判断ＤＩは2.8→△5.2と、今回調査比で**8.0ポイント低下し、業況判断ＤＩはマイナスに転じる見込み**となっています（図表1-1）。

前年同期比売上額ＤＩは13.6、同収益ＤＩは△13.2となり、増収減益となっています。物価高騰、人件費高騰による利幅縮小の影響が出ているものと思われます（図表1-2）。

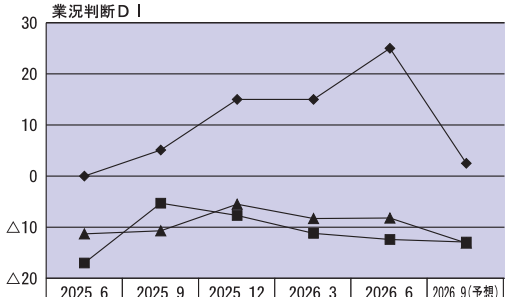
今回調査期間で設備投資を実施した企業の割合は12.5%となり、前回調査から変動はありませんでした。借入を実施した企業の割合は18.8%となり、前回調査比1.3ポイントの低下となりました。

次回調査期間に設備投資を予定している企業の割合は12.9%であり、今回調査期間に設備投資を実施した企業の割合と比較して0.4ポイントの上昇となっています。また、次回調査期間に借入を予定している企業の割合は13.7%であり、今回調査期間に借入を実施した企業の割合と比較して5.1ポイントの低下となっています（図表1-4）。

また、設備状況の見通しが「やや不足」「不足」と判断している企業のうち、設備投資をおこなわないと回答している企業が55.0%（前回調査比8.6ポイント低下）となっており、半数以上の企業が設備投資を控える意向であることが窺えます。

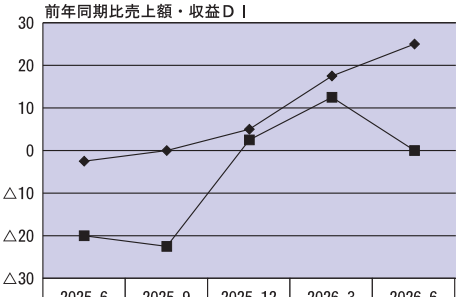
製　造　業

図表2-1



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6	2026.9(予想)
当金庫調査ＤＩ	0.0	5.1	15.0	15.0	25.0	2.5
中国地区ＤＩ	△17.0	△5.3	△7.7	△11.2	△12.4	△12.9
全国ＤＩ	△11.3	△10.7	△5.5	△8.3	△8.2	△13.1

図表2-2



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6
前年同期比売上額ＤＩ	△2.5	0.0	5.0	17.5	25.0
前年同期比収益ＤＩ	△20.0	△22.5	2.5	12.5	0.0

景　況　　～今期上昇　次回調査期間は低下の見込み～

今期の業況判断ＤＩは15.0→25.0と前回調査比で**10.0ポイント上昇**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断ＤＩは25.0→2.5と**22.5ポイント低下する見込み**となっています（図表2-1）。
今回調査期間中に日本銀行より発表された岡山県金融経済月報によると、県内主要製造業の生産は「横ばい圏内の動きとなっている。」との判断となっています。生産種別で個別に確認すると、電気機械について「ＡＩ関連需要等を背景に、緩やかに持ち直している。」となっています。
経営上の問題点としては「原材料高」と回答する企業が最も多い結果となりました。
当面の重点経営施策においては「経費を節減する」と回答する企業が最も多く、高騰する原材料費に対して経費削減により利益確保に努めている企業が増えていることが窺えます。

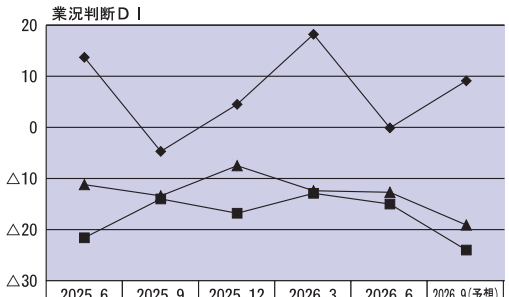
経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	原材料高	57.5%	人手不足	27.5%	売上の停滞・減少	25.0%
			仕入先からの値上げ要請	27.5%	利幅の縮小	25.0%
当面の重点経営施策	経費を節減する	42.5%	販路を広げる	35.0%	人材を確保する	25.0%
			情報力を強化する	35.0%		

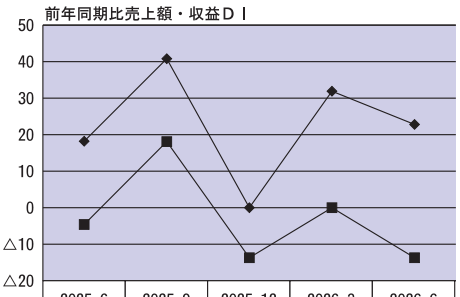
卸　売　業

図表3-1



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6	2026.9(予想)
当金庫調査ＤＩ	13.7	△4.7	4.5	18.2	△0.1	9.1
中国地区ＤＩ	△21.6	△14.0	△16.8	△12.9	△15.0	△24.0
全国ＤＩ	△11.2	△13.4	△7.5	△12.4	△12.7	△19.1

図表3-2



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6
前年同期比売上額ＤＩ	18.2	40.8	0.0	31.9	22.8
前年同期比収益ＤＩ	△4.6	18.1	△13.7	0.0	△13.7

景　況　　～今期低下　次回調査期間は上昇の見込み～

今期の業況判断ＤＩは18.2→△0.1と前回調査比**18.3ポイントの低下**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断ＤＩは△0.1→9.1と**9.2ポイント上昇する見込み**となっています（図表3-1）。
経営上の問題点としては「利幅の縮小」「仕入先からの値上げ要請」との回答が最も多くなっています。その問題点に対応するため、当面の重点経営施策では「経費を節減する」「販路を広げる」との回答が最も多くなっています。

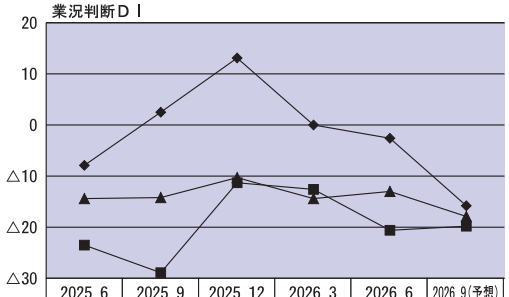
経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	利幅の縮小	40.9%	売上の停滞・減少	27.3%	人手不足	13.6%
	仕入先からの値上げ要請	40.9%				
当面の重点経営施策	経費を節減する	45.5%	情報力を強化する	22.7%	人材を確保する	18.2%
	販路を広げる	45.5%				

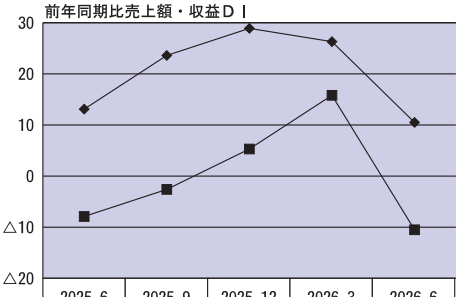
小　売　業

図表4-1



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6	2026.9(予想)
当金庫調査ＤＩ	△7.9	2.5	13.1	0.0	△2.6	△15.8
中国地区ＤＩ	△23.5	△28.9	△11.3	△12.6	△20.6	△19.6
全国ＤＩ	△14.4	△14.2	△10.3	△14.4	△13.0	△17.9

図表4-2



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6
前年同期比売上額ＤＩ	13.1	23.6	28.9	26.3	10.5
前年同期比収益ＤＩ	△7.9	△2.6	5.3	15.8	△10.5

景　況　　～今期低下　次回調査期間は低下の見込み～

今期の業況判断ＤＩは0.0→△2.6と前回調査比**2.6ポイントの低下**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断ＤＩは△2.6→△15.8と**13.2ポイント低下する見込み**となっています（図表4-1）。
経営上の問題点において、「売上の停滞・減少」との回答が増加しています。
当面の重点経営施策では利益確保のため「経費を節減する」との回答が多くなっています。

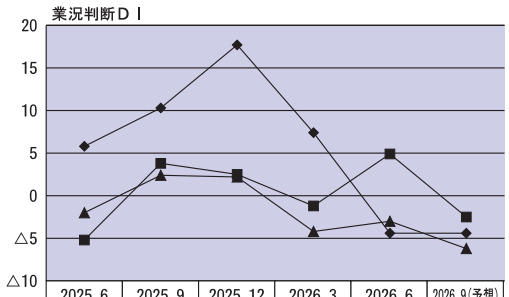
経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	39.5%	同業者間の競争の激化	34.2%	大型店との競争激化	28.9%
当面の重点経営施策	経費を節減する	57.9%	売れ筋商品を取扱う	28.9%	販路を広げる	18.4%
			宣伝・広告を強化する	28.9%		

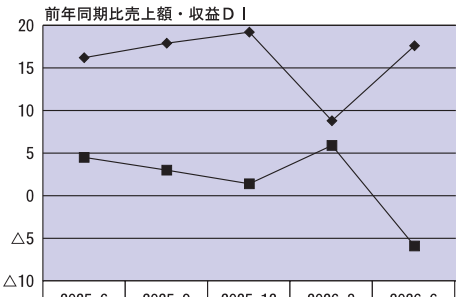
サービス業

図表5-1



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6	2026.9(予想)
当金庫調査ＤＩ	5.8	10.3	17.7	7.4	△4.4	△4.4
中国地区ＤＩ	△5.2	3.8	2.5	△1.2	4.9	△2.5
全国ＤＩ	△2.0	2.4	2.2	△4.2	△3.0	△6.2

図表5-2



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6
前年同期比売上額ＤＩ	16.2	17.9	19.2	8.8	17.6
前年同期比収益ＤＩ	4.5	3.0	1.4	5.9	△5.9

景　況　　～今期低下　次回調査期間は横ばいの見込み～

今期の業況判断ＤＩは7.4→△4.4と前回調査比**11.8ポイントの低下**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断ＤＩは△4.4→△4.4と**横ばいの見込み**となっています（図表5-1）。
経営上の問題点として「材料価格の上昇」の回答が最も多くなっており、利益確保に苦慮している事業者が多いものと想定されます。
当面の重点経営施策では前回に引き続き「経費を節減する」の回答が最も多くなっています。

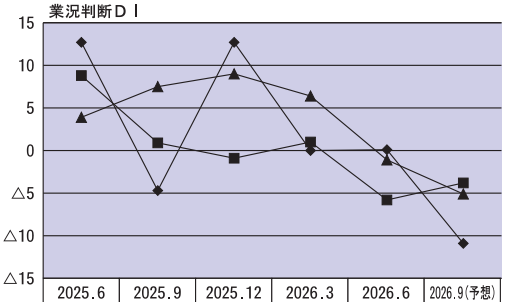
経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	材料価格の上昇	32.4%	売上の停滞・減少	27.9%	人手不足	23.5%
当面の重点経営施策	経費を節減する	47.1%	販路を広げる	30.9%	宣伝・広告を強化する	19.1%

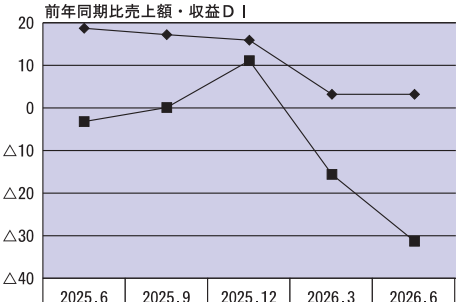
建　設　業

図表6-1



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6	2026.9(予想)
当金庫調査ＤＩ	12.7	△4.7	12.7	0.0	0.1	△10.9
中国地区ＤＩ	8.8	0.9	△0.9	1.0	△5.8	△3.8
全国ＤＩ	3.9	7.5	9.0	6.4	△1.1	△5.1

図表6-2



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6
前年同期比売上額ＤＩ	18.7	17.2	15.9	3.2	3.2
前年同期比収益ＤＩ	△3.2	0.1	11.1	△15.6	△31.3

景　況　　～今期上昇　次回調査期間は低下の見込み～

今期の業況判断ＤＩは0.0→0.1と前回調査比**0.1ポイントの上昇**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断ＤＩは0.1→△10.9と**11.0ポイントの低下見込み**となっています（図表6-1）。
経営上の問題点として「材料価格の上昇」との回答が引き続き最も多くなっています。
当面の重点経営施策としては問題点への対応として「経費を節減する」、「販路を広げる」、「人材を確保する」との回答が多くなっています。

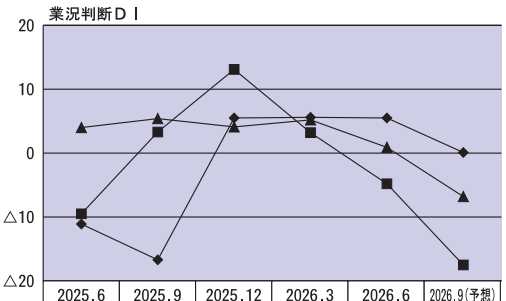
経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目（10ポイント以上上昇は濃）

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	材料価格の上昇	57.8%	売上の停滞・減少	34.4%	人手不足	28.1%
当面の重点経営施策	経費を節減する	46.9%	販路を広げる	39.1%	人材を確保する	25.0%

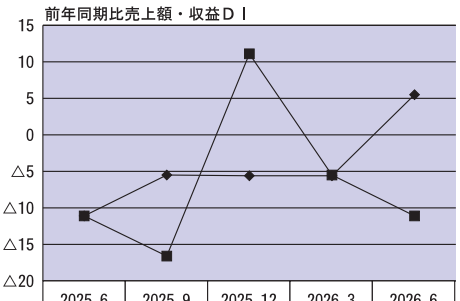
不動産業

図表7-1



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6	2026.9(予想)
当金庫調査ＤＩ	△11.1	△16.7	5.5	5.6	5.5	0.1
中国地区ＤＩ	△9.5	3.3	13.1	3.2	△4.8	△17.5
全国ＤＩ	4.0	5.4	4.1	5.2	0.9	△6.8

図表7-2



	2025.6	2025.9	2025.12	2026.3	2026.6
前年同期比売上額ＤＩ	△11.1	△5.5	△5.6	△5.6	5.5
前年同期比収益ＤＩ	△11.1	△16.6	11.1	△5.5	△11.1

景　況　　～今期低下　次回調査期間は低下の見込み～

今期の業況判断ＤＩは5.6→5.5と前回調査比**0.1ポイントの低下**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断ＤＩは5.5→0.1と**5.4ポイント低下する見込み**となっています（図表7-1）。
経営上の問題点として「売上の停滞・減少」「同業者間の競争の激化」との回答が増加しています。
重点経営施策としては「販路を広げる」「宣伝・広告を強化する」との回答が増加しており、顧客との接点を増やす取り組みにより売上増加を図る企業が多いことが窺えます。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目（10ポイント以上上昇は濃）

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	38.9%	商品物件の不足	27.8%	商品物件の高騰	22.2%
			同業者間の競争の激化	27.8%		
当面の重点経営施策	情報力を強化する	50.0%	販路を広げる	38.9%	宣伝・広告を強化する	22.2%

調査先企業の声

製造業

・原価高騰もしているが、材料自体が手に入らなくなる事態を懸念している。【印刷】

・受注確保しているが、仕入高増加しており利益率悪化。オペレーターを確保できないため機械化を進められない。【金属加工】

・地元の食材を使った新商品を開発中。今後は全国に向けてのPRを強化していく方針。【菓子】

卸売業

・季節ごとに仕入れ資金等は必要になるが、業況自体は安定している。【青果】

・物価上昇に伴い仕入単価が増加するも価格転嫁できていない状況。内部留保により資金繰りを回している。【米・酒類】

・原材料や塗料等不足しており、今後減収減益を想定している。取引先に協力してもらいながら難局を乗り越えたい。【袋・フィルム】

小売業

・中国から商品を仕入れているが、ビニール類の値上がり、品薄が続いている。【雑貨（EC）】

・海外を拠点とし、衣服・雑貨の輸入販売を営んでいる。中東情勢の影響を受け資金繰り悪化している。【衣服】

・近隣飲食店に取引先多数確保しており業者向けの販売は安定している。一般消費者向け販売は日々SNSで情報発信し、集客に向けた努力をしている。【鮮魚】

サービス業

・中東情勢の影響により資材や備品等の仕入が上昇しているが現時点では経営に大きなダメージを与えるほどではない。【美容室】

・冬の繁忙期が終わり閑散期となっているが、秋に向けてのレンタル受注は順調に増えている。【貸衣装】

・中東情勢の影響により、あらゆる材料の値上げが止まらない状況。価格転嫁をおこない対応しているが、いつまで続くか不安を感じている。【クリーニング】

建設業

・中東情勢の影響により生コン含めた資材の値段が高騰している。資金繰りにも影響が出始めている。【住宅基礎】

・以前より内製化を進め、利益率の改善を目指しているが、人材確保が課題となっている。【とび】

・大規模工事を控えているが、中東情勢の影響により材料調達ができない可能性が出てきている。工期が長期化する場合は資金繰りへの影響が懸念される。【管工事】

不動産業

・案件が少なく売上利益共に低迷している。売上増加のため宣伝の強化や情報力の強化を目指す方針。【不動産仲介】

・物件価格高騰しており、収益物件の取得費用が高くなるため利回りが悪化することを懸念している。【不動産賃貸】

・入居者退去時に念入りなリフォームを実施することで高い入居率を維持しているが、リフォーム費用が高騰しており、利益率の悪化を招いている。【不動産賃貸】

おかやましんきん“TKC Will”

TKC会員税理士 顧問先事業者様向け融資制度

ご利用いただける方	1～5　すべてを満たす事業者様 1. 当金庫のエリア内で事業を原則3年以上営んでいる 2. 当金庫会員の資格を有する 3. TKC全国会会員税理士を通じてお申し込み 4. TKCモニタリング情報サービスを利用して当金庫に決算書を提出している 5.「記帳適時性証明書」の「◎」が直近決算期において6個以上
お　使　い　み　ち	事業資金（運転資金、設備資金）
ご　融　資　金　額	100万円以上3,000万円以内
ご　融　資　期　間	運転資金：　7年以内（据置期間1年以内） 設備資金：10年以内（据置期間1年以内）
ご　融　資　利　率	当金庫所定の融資利率から最大年0.8%優遇 ※条件は下記「金利優遇条件」を参照
金　利　優　遇　条　件	共通：当金庫所定の融資利率から年0.3%優遇 下記金利優遇条件に当てはまる場合、さらに金利を優遇 1.「記帳適時性証明書」の「◎」が過去3年間において30個以上 　年0.1%優遇 2.『「中小企業の会計に関する基本要領」の適用に関するチェックリスト』を提出 　年0.1%優遇 3.「TKCモニタリング情報サービス」を利用して月次試算表を提出 　年0. 1%優遇 4.「継続MAS利用システム」による経営計画を策定している 　年0.2%優遇
ご　融　資　形　式	証書貸付
ご　返　済　方　法	元金均等返済、元利均等返済
担　　保	原則として不要
連　帯　保　証　人	経営者保証に関するガイドライン*に基づき判断いたします *経営者保証に関するガイドライン研究会（全国銀行協会および日本商工会議所の共同事務所）により2013年12月5日に策定、公表された自主的・自律的な準則です

●くわしくは店頭・渉外担当者または当金庫のホームページでご確認ください。

調査の要領

1）調 査 時 点　2026年6月1日～5日
2）調査対象期間　2026年4月～6月
3）調 査 対 象　250企業（有効回答数250企業・回答率100.0%）
4）調 査 方 法　おかやま信用金庫各営業部店の職員による聞き取り調査
5）分 析 方 法　各質問事項で「良い」（上昇）とした企業が全体に占める構成比と、「悪い」（低下）とした企業の構成比との差（判断ＤＩ）を中心に分析
※ＤＩ＝ディフュージョン・インデックスの略
一般にプラスは好調、マイナスは不調を示す（仕入価格ＤＩについては逆）
6）そ の 他　全国ＤＩならびに中国地区ＤＩは、全国の信用金庫が中小企業約16,000先を対象として調査し、信金中央金庫が取りまとめた数値を使用

回答率

（単位：先、%）

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
回答企業数	40	22	38	68	64	18
回　答　率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

従業員数

（単位：先）

業種 / （単位：人）	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
0～9	22	13	27	48	50	16	176	70.4%
10～19	8	5	6	8	9	1	37	14.8%
20～29	4	2	1	4	5	1	17	6.8%
30～49	2	1	3	4	0	0	10	4.0%
50以上	4	1	1	4	0	0	10	4.0%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

資本金

（単位：先）

業種 / （単位：千円）	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
10,000未満	20	7	23	38	33	9	130	52.0%
10,000～49,999	17	15	14	27	31	9	113	45.2%
50,000～99,999	3	0	1	2	0	0	6	2.4%
100,000以上	0	0	0	1	0	0	1	0.4%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

編集後記

今回調査期間における全業種総合の業況判断ＤＩは前回調査比で3.6ポイント低下し2.8となりました。業種別においては全6業種中、製造業、建設業、不動産業の3業種で業況判断ＤＩがプラスとなっており、全体として景況感はやや高めで推移しています。また、当面の重点経営施策として「販路を広げる」と回答した企業が増加しており、売上成長への意欲が高い企業が増えています。おかやま信用金庫では引き続き、地元岡山の中小企業の皆様の実情をしっかりと把握したうえで、迅速で最適な支援をおこない地域経済を支えてまいります。

— 2026.9 —

おかやま信用金庫
価値創造部
〒700-8639 岡山市北区柳町1丁目11番21号
TEL：フリーダイヤル 0120-173-299（ガイダンス番号5）
FAX：086-226-2288
https：／／www.shinkin.co.jp／okayama／
e-mail：sien@okayama.shinkin.jp

VEGETABLE OIL INK